

第3学年 保健体育科学習指導案

日 時 平成23年10月12日(水) 5校時
 場 所 遠野市立附馬牛中学校 体育館
 学 級 3学年 男子11名 女子4名 計15名
 指導者 教諭 石井紀恵

1 単元名 ダンス (創作ダンス)

2 単元について

(1) 教材観

ダンスは「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流から仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動である。また、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

「創作ダンス」は、生活や経験などから、心に残った印象や感動(イメージ)を自由に表現して踊る楽しさがあり、「フォークダンス」は生活の中から生まれ伝承されている日本や外国の踊りを身につけ、皆と一緒に踊る楽しさがある。また、「現代的なリズムダンス」では、ロックやヒップホップ・サンバなどの現代的で軽快なリズムによって仲間と自由に踊る楽しさがある。

ダンスの学習は「心と体を一体としてとらえる」という体育の目標を生かす内容であり、自分の感じたことや考えたことをリズムカルな身体の動きによって心と体を開放し、自由に創造的に表現することを特性としている。個や集団でも表現でき、創造力や表現力を高めるのに効果的で、特に集団の創作活動では思いやり、協力性を育てることができる。

(2) 生徒観

本学級は生徒15名(運動部12名、文化部3名)の少人数のクラスであり、小学校1年生から単独校で学校生活を送っており、生徒同士は仲もよく、明るく素直である。男子がクラスの約3/4を占め、女子は男子の勢いに押されがちであったが、学年を重ねるごとにお互いに励まし合い、協力する姿が少しずつ見られ、男女分け隔てなく取り組むようになってきた。全体的には授業への興味関心は強く取りかかりが早い。一方、最後まで集中力を持続することや、筋道立てて物事を判断したりすることが苦手な生徒が多く課題である。

本学級の昨年度の新体力テスト結果では、男女ともに20mシャトルラン、50m走の全身持久力・筋力が低く課題であったが、今年度の結果によると共に向上傾向であった。また、総合判定も上回った生徒も増え、さらに、今年度の実態から柔軟性を高める取り組みで効果を図っていききたい。

保健体育の授業に関しては、体を動かすことを好む生徒が多く、運動が苦手でも熱心に活動する様子や教え合う姿も多く見られるようになってきた。本単元の事前の意識調査によると、ダンスについての興味関心は低い方で、人前で踊ることについても抵抗があるようである。リズム体操発表やダンス発表を小学生の時から取り組んできているものの、内心は恥ずかしさがあるようである。しかし、ダンスに対するイメージについては「楽しそうに踊る」と前向きにとらえている生徒が多い。

【事前の意識調査】

運動することが好きか	はい 13名	いいえ 2名
踊ることが好きか	好き 0名 あまり興味がない 8名	どちらかといえば好き 3名 ない 4名
人前で踊ることを恥ずかしいと感じるか	はい 5名 あまり感じない 5名	どちらかといえばはい 4名 ない 1名
ダンスに興味があるか	はい 0名 あまり興味がない 12名	どちらかといえばはい 0名 ない 3名
ダンスというと何をイメージするか	楽しそうに踊る 9名 運動会のダンス 2名 特にない 1名	アイドルの踊り 2名 きつい 1名
ダンスの授業で不安なことあるか	ない 8名 一人で踊るのが不安 3名	うまくできるか 4名
ダンスの授業について要望はあるか	ない 12名	一人ではなくみんなで踊りたい3名

(3) 指導観

外部指導者の指導によるリズム体操発表やダンス発表を小学生の時から取り組んできている。決められた振り付けや特徴的なステップ等で動き発表した経験や伝承されてきた踊りの経験はあっても、自分たちでテーマからイメージすることを体で表現したことはない。

ダンスの経験はあるものの、ほとんどの生徒が人前で踊ることに恥ずかしさを抱いており、自由に表現するまでには至っていないのが実態である。

そこで、本単元の指導にあたってはまず、「恥ずかしがらずにのびのびと踊ること・表現すること」を目標とし、即興表現を繰り返し様々なテーマで短い動きのまとまりをつくることから始めたい。仲間と協力して創作活動を行い、イメージしたことを身体表現して一つの作品を完成させ、創る喜びやすばらしさを味わわせたい。また、心で感じたことを身体の動きでリズムカルにそしてテンポ良く踊り、生徒達の興味を引きだし、イメージにふさわしい動きを自由に表現させていきたい。

事前の意識調査から、体を動かすことを好む生徒が多く、運動が苦手でも熱心に活動する様子や教え合う姿も多く見られている。このことに着目し、自由に身体表現ができる創作ダンスの学習を通し不安や抵抗感を取りのぞかせていきたい。そして、仲間やグループで作品をつくり、感じを込めて感動を分かち合ったりする楽しさを味わえる「創作ダンス」へと発展させて行きたい。

校内研究の関わり

《基礎・基本の定着》

- ・毎時間のウォーミングアップでは、簡単なリズムで体を動かしたり、既習内容を組み入れ表現することに抵抗を感じないような動きを設定する。
- ・テーマからイメージし、それを表現する即興活動を繰り返すことによって不安や恥かしさを取り除いたり、復習からの積み上げを繰り返しながら授業を展開する。

《言語活動》

- ・テーマにふさわしい動きや隊形について考えを出し合い、互いに模倣し合ったり、見合ったりしながら学習を進める。
- ・発表と鑑賞を通してお互いに評価し合い、できばえを確認したりテーマに基づいた動きを説明する力をつけさせながら学習を進める。

3 単元の目標

【運動への関心・意欲・態度】

- ・創作ダンスの特性に関心を持ち、仲間とともに踊る楽しさや喜びを味わえるように進んで取り組めるようにする。
- ・互いの動きから表現のよさなどを認め合い、健康・安全について留意しながら協力して練習したり、発表や鑑賞をできるようにする。

【運動についての思考・判断】

- ・テーマにふさわしいイメージや踊りの構成を見付け、取り組み方を工夫できるようにする。

【運動の技能】

- ・いろいろなテーマからイメージを動きで表現したり、仲間とかかわって感じを込めて踊ったり、動きを合わせて踊ったりして作品にまとめることができる。

【運動についての知識・理解】

- ・イメージを自由にとらえて仲間とともに表現し合い、踊るものであることを理解している。
- ・発表・鑑賞の仕方や交流し合う方法があることを理解している。

4 単元の指導・評価計画（12時間扱い）

時間	学習内容	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
1	オリエンテーション 事前の意識調査 運動の特性 学習のねらい	・ダンスの特性を 理解し、進んでも 授業に取り組 うとしている。			・イメージを自由 に表現して踊る ものであること を理解している。
2 3	ねらい1 即興を中心とした 活動	・互いの表現を認 め動く楽しさを 味わおうとして いる。	・言葉や音楽から イメージをひき だしている。	・テーマからイメ ージが伝わるよ うに踊ることが できる。	
4 本時	ねらい2 ミニ発表	・仲間と練習も協 力し、作品づく りに取り組もう としている。	・テーマに基づい たイメージを出 し合い動きを工 夫している。		
5 ～ 10	ねらい3 作品づくり	・互いの動きを 健康に留意し ながら協力し て進めよう としている。	・自分や仲間の動 きや感じ方、表 現の良さについ きをつけて、工 夫をこらして いる。	・伝えたいテー マについて表 現することが できる。ま た、一ま たの流 れに 変 化 を こ ら し て 踊 る こ と が あ る。	・イメージを自由 にとともに踊 ることを理解 している。
11	発表	・互いの表現の良 さを認め合 い、協力を すすめてい くことができる。			・発表会の企画・ 運営の仕方を理 解している。
12	まとめ 事後の意識調査	・自己の学習活 動を振り返り、 今後の学習に 生かそうとし ている。			・学習の仕方や できるか を確認し、理 解している。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・仲間とともに協力して練習し、作品づくりに取り組めるようにする。
【運動への関心・意欲・態度】
- ・テーマに基づいたイメージを出し合い動きを工夫できるようにする。
【運動についての思考・判断】

(2) 具体的評価規準

	A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒へ の手立て
運動への 関心・意欲・態度	・仲間と関わりの中で、積 極的にアドバイスを するなど、作品づくりに意欲的 に取り組んでいる。	・仲間とともに協力して作品 づくりに取り組んでいる。	・本人のひらめきや取り組 みなど、良さを称賛し、自 身をもつ声かけを行わせ る。
運動についての 思考・判断	・テーマに基づいたイメ ージに相応しい動きを引き 出し、集団を生かした動 きにすることができる。	・テーマに基づいたイメ ージの動きを考え出すことが できる。	・本人の体験などから動き を着想させ、イメージを 引き出す助言を行う。

(3) 授業の構想

導入の準備運動からリズムに乗って体を動かし、心と体を解放しながら自由に踊る雰囲気をつくりながら進めていきたい。

課題テーマからイメージを引き出す場面においては、前時までの即興活動を生かしなが
ら、仲間と関わり合い、学び合いを深めていく。また、個人や集団で自由にイメージした
ものを身体を使って表現することにより、その表現の豊かさを仲間と共感できる授業を組
み立てていきたい。

(4) 本時の展開

過程	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導 入 10 分	1 挨拶、健康観察	・挨拶、出欠席、健康観察を行う。	・用具が安全に設置されているか確認する。 ・集合し挨拶させる。
	2 準備運動、補強運動	・自他の健康・安全に注意する。 ・リズムによって全身を使い準備運動を行う。	・体調不良などで見学の生徒へ指示を行う。 ・心と体を開放し、リズムによって準備運動を行わせる。
	3 学習課題の把握	・課題を確認する。	
スポーツからイメージする動きを創り発表しよう			
展 開 30 分	4 課題追究 ①イメージの追究	グループ内でイメージした動きを話し合う。	・テーマに基づいたイメージする動きを考え、話し合うことができているか。 (評)
	②作品構成	出し合った動きを組み合わせ踊り、ひとまとまりの動きにまとめる。 ・各グループで取り組んだダンスを楽しみながら通して行う。	・仲間とともに協力して作品づくりに取り組んでいるか。 (評) ・互いの動きを確認させながら恥ずかしがらず積極的に行わせる。 ・仲間と交流しながら楽しく踊らせる。
	5 グループ毎の発表	各グループでイメージした動きを説明し、発表し合う。	・イメージした動きを説明し、発表することができたか。 (評)
終 末 10 分	6 まとめ	本時の課題を振り返り、学習カードに記述する。	・本時の学習を振り返り、学習カードに記述させる。
	7 整理運動	・整理運動を行う。	・整理運動を十分行わせ、けが人等がないか確認する。
	8 次時の予告	・次時の活動内容を把握する。	・次時の見通しを持たせる。
	9 挨拶・用具の片付け	・挨拶をし、用具の片付けを協力して行う。	・挨拶をさせ、用具の片付けを協力して行わせる。

□ : 言語活動 (評) : 評価